

千里金蘭大学建学の精神
志を同じくするものが協力すれば、何事でもなしとげることができる。 その言葉は、蘭の花のようにかぐわしい。
大学の教育理念・目的（教育目的）
本学は、建学の精神に則り、豊かな教養と深い専門知識を有し、高い志のもと、社会に貢献し信頼される人材を養成することを目的とする。
大学の教育目標
千里金蘭大学の教育目的を実現するため、自ら考え自ら学ぶ姿勢を身につけることで、他者への共感・他者との協調・他者への奉仕を実践し、持続可能な社会の構築に貢献できる、すなわち自らを育て自立することのできる女性の育成を目標とする。

看護学部看護学科 教育研究上の目的（人材養成の目的）	
豊かな人間性と倫理観及び専門的知識と技能を基盤とした看護実践ができる看護職者の育成を目的とする。すなわち、看護に必要な科学的知識や技能を授け、人格を涵養し、看護の実践や応用を通して疾病の予防、治療、健康の保持・増進に貢献できる人材を育成する。	
看護学部看護学科 教育目標	
<知識・技能>	(1) 幅広い教養に加え、看護実践に必要な基礎的理論と技能を身につけ、生命の尊厳と人権の尊重に基づいた倫理観を養う。
<思考力>	(2) 知識や技能を多様な対象者に適切に実践・応用できる創造的思考力や判断力を身につけ、看護職者として自律して学び続ける姿勢を養う
<実践力>	(3) 看護を取り巻く情勢や健康課題に関心を有し、多職種と連携・協働して看護を実践できる能力とともに、自己啓発できる能力を養う。

看護学部 看護学科 卒業認定・学位授与の方針 【ディプロマ・ポリシー】

看護学科では、豊かな人間性と倫理観及び専門的知識と技能を基盤とした看護実践ができる看護職者を育成するために、所定の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような目標を達成した者に学位（看護学）を授与する。		
<知識・技能>	教養・専門性・総合力	自らを育て自立した女性の自己実現のために、幅広く深い教養を修めるとともに、命の尊厳を基盤とした豊かな人間性、倫理観、責任感を身につけている。
<思考力>	問題解決・発見力	人々を取り巻く環境の変化や健康問題を発見し解決する能力を身につけている。
	論理的・批判的思考力	健康課題に対し、批判的・分析的・論理的思考能力を身につけている。
	客観的思考力	あらゆる状況において、科学的・客観的視野に立って的確な判断ができる能力を身につけている。
	生涯学習力	健康課題に対し、常に新しい技術や知識を探求する姿勢と柔軟な創造性を身につけている。
<実践力>	自律的活動力	効果的な看護実践に向け、主体的に取り組む力を身につけている。
	人間関係形成力	人間を一つの人格として全体的に捉え、豊かな対人関係能力を身につけている。
	社会参画力	市民社会の一員として、異文化への理解と社会に貢献する姿勢が身につけている。

看護学部 看護学科 教育課程編成の方針【カリキュラム・ポリシー】

<p>看護学科では、看護職者としての基礎的・基本的な資質・能力を養成するために、教養教育科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。また、教育課程外で正規の授業科目との関連に考慮した学習や体験活動等の機会を充実させ、もって大学における教育活動全体によりディプロマ・ポリシーに掲げる目標の達成を図る。教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように方針を定める。</p>		
1. 教育内容	(1)	高大接続を円滑なものとするため、1年次に初年次教育を行う。
	(2)	深く幅広い知識の修得と豊かな人間性や倫理観の涵養のため、歴史、文化、科学、法律、語学、情報等についての知識・技能を学ぶ。
	(3)	自らを育て自立した女性の自己実現に寄与するため、「女性のライフサイエンス」、「社会貢献論」を必修科目として配置する。
	(4)	看護職者に必要な専門教育科目を体系的に編成し、人々を心身の両面から理解することを図るとともに、科学的知識の修得や論理的思考力の育成を図る。保健師教育課程・助産師教育課程は、看護基礎教育との順序性を考慮し、かつ、それぞれの職業アイデンティティの形成に配慮した編成を行う。
	(5)	初年次から臨地実習、基礎演習等で少人数での双方向性の指導を行うことにより、学生が自ら考え行動する契機を与え、高学年次の領域別看護学実習、総合看護学実習の履修によって実践能力を段階的に育成する。
	(6)	看護職者としての役割や使命感を認識し、他者と協働して問題解決にあたる姿勢を養うため、学内や地域社会での体験の機会を提供する。
2. 教育方法	(1)	講義、演習、実習を通して双方向的授業、課題解決型授業、シミュレーション学習等を積極的に導入し、主体的な学修力を高める。具体的には、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、ディベートを用い、多方向的な教育を行う。
	(2)	初年次の基礎演習や臨地実習においては、知識修得を図るため、また、関係の自立促進のために、学生数を適切な規模に維持する。
	(3)	教育効果を十分にあげられるよう、時間割編成上の配慮、課題の提示、看護技能の自主練習時間の確保等、授業時間外における学修を充実させる取り組みを行う。
	(4)	基礎看護学実習、領域別看護学実習、総合看護学実習にはそれぞれ履修条件を設け、必要な知識や技能の修得の促進を図るとともに、学生が自覚をもって実習に臨む態度を育成する。
	(5)	4年次後期に、看護技能の到達度について教員、学生自身双方から評価する。
3. 学修成果の評価	(1)	成績評価の基準が規定されており、学生ハンドブックやシラバスへ明記して周知を図る。
	(2)	成績評価の妥当性は必要に応じて領域会議や教授会で審議し、公正に評価が行われるよう配慮する。

看護学部 看護学科 入学者選抜の方針【アドミッション・ポリシー】

<p>看護学科は、豊かな人間性と倫理観及び専門的知識と技能を基盤とした看護実践ができる看護職者の育成を目的とする。すなわち、看護に必要な科学的知識や技能を授け、人格を涵養し、看護の実践や応用を通して疾病の予防、治療、健康の保持・増進に貢献できる人材の育成を教育目的に掲げている。そのような教育目的の下、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた学生を求める。</p>	
(1)	高等学校の教育課程を幅広く修得している人
(2)	看護職について積極的な興味や関心があり、生命への尊厳と他者への思いやりをもっている人
(3)	人と関わることの喜びや楽しさを感じ、他者の気持ちを理解することができる人
(4)	高等学校までの履修内容のうち、読解力や表現力の基盤として「国語（国語総合）」、「英語」を、論理的・科学的思考力の基盤として「数学」、「生物」、「化学」の基礎知識を身につけている人
(5)	看護職として社会に貢献したいという目的意識をもっている人